

全国規模で開かれる和牛の品評会『第10回全国和牛能力共進会』が10月25日から29日にかけて、長崎県佐世保市で開かれます。5年に1度の開催から別名『和牛のオリンピック』と称される同大会。初開催から半世紀の時を経て今回、串間市から初の宮崎県代表牛が誕生しました。悲願の宮崎県代表入りを果たした畜産農家の皆さんにお話を聞きました。



本城地区・鎌田秀利さん  
くしまるみ  
代表牛 串雅留美

# 「和牛日本一」を目指して

全国和牛能力共進会（以下、「全共」）は全国和牛登録協会が主催する和牛の品評会。『種牛』と『肉牛』の2部門を性別や月齢などにより9区分に分け、地域の実力を競います（表1参照）。

前回の全共では、宮崎県代表牛が種牛・肉牛の両部門で最高賞の内閣総理大臣賞を受賞。7つの区分で優等賞首席を制したほか、特別賞、出品対策技術表彰1席を受賞し、見事日本一に輝きました。

今回、串間市から代表牛を送り出すのは種牛の部第4区（系統雌牛群）と種牛・肉牛混成区の第7区（総合評価群）。

7区の肉牛群へ、串間市から初めて出品する鎌田秀利さん（本城地区・浦）にお話を聞きました。

## 牛との信頼関係

牛舎に何うと、子どもを見るように、牛を見守る鎌田さんの姿がありました。「牛にとって一番大切なのはストレスを与えないこと。のびのびと生活させてやるのが、わたしの仕事なんです」と牛たちに優しい眼差しを向けていました。牛を育てるうえで重要な

なのは、彼らとの信頼関係だと話す鎌田さん。「牛は命を提供してくれる。そして消費者が食べて、喜んでくれる。わたしたちは命のやり取りをしています。それを忘れないことが大事かな」。そう話しながら優しく牛をなでる姿が印象的でした。

## 思えば110

7区は種牛、肉牛7頭1組の総合評価で審査。宮崎県の、和牛産地としての総合力が問われます。大会への意気込みを何うと「選ばれたのはうれしいが、やはり責任を感じます。選ばれなかった農家と牛もたくさんいることを思うと、当日まで肩の荷が重い」と多少プレッシャーを感じている様子。しかし『自信のほどは？』とお聞きすると「出すからには絶対の自信があります。今回は口蹄疫の終息後をはじめの全共。行政やJAなど関係機関と農家の気持ちは、ただ一つでし

た。どうしても優勝したい。協力してくれた全国の方に、復興した姿を見てもらいたい。みんなの思いがあるからこそ、自信がないなんて絶対に言いません」と、やや強い口調で、決意を示しました。

今回の全共への出場は南那珂地区にとつては特別な思いがありました。JAはまゆう畜産部で長年南那珂の畜産を支えてきた、中山満彦さんにお話を伺いました。



JAはまゆう畜産部  
中山 満彦さん

## 悲願を若い世代に

『美福10』という1970年代に活躍した種雄牛。宮崎県の種雄牛のほとんどがその血を受け継いでいるともいえます。その美福10が初めて貸し出されたのが南那珂地区。地区では長年改良を重ねてきました。

【全国和牛能力共進会出品区】

(表1)

部門	出品区	条件
種牛の部	第1区（若雄）	15～23カ月未満
	第2区（若雄の1）	14～17カ月未満
	第3区（若雄の2）	17～20カ月未満
	第4区（系統雌牛群、4頭1組）	14カ月以上
	第5区（繁殖雌牛群、4頭1組）	3回以上出産していること
	第6区（高等登録群、3頭1組）	14カ月以上
	第7区（総合評価群、7頭1組）	
肉牛の部	種牛群（4頭） 肉牛群（3頭）	17～24カ月未満 24カ月未満
	第8区（若雄後代検定牛群、3頭1組）	24カ月未満
	第9区（去勢肥育牛）	24カ月未満

### 【補足】

◎第4区…各都道府県で畜産の発展に貢献した系統牛の改良の成果を評価。同じ地域の4頭1組で出品する。  
\*南那珂地区から「美福10」を始祖牛とする「まみ511」（黒木松吾さん・串間市）、「つみえ221」（岩下信さん・同）、「きくみ2の2」（吉田正彦さん・同）、「たまこ3」（鳥越春枝さん・日南市）の4頭を選出。  
◎第7区…種牛能力と産肉能力を総合評価する混成区。同一種雄牛の産子を種牛群（4頭）・肉牛群（3頭）として7頭1組で出品する。  
\*種雄牛は「美徳国」。肉牛部門に南那珂地区の「串雅留美」（鎌田秀利さん・串間市）を選出。

今回に向けて、JAはまゆうでは高千穂など先進地に技術員を派遣。行政やJAの技術員で構成される南那珂郡市畜産技術委員会での改良を加えてきました。「若い世代の頑張りが目立ちました。彼らが農家の皆さんと気持ちを一つにして、ここまで来られたんだと思います。」と後輩たちを見守ります。

「牛の改良つて結局は、人なんですよね。人が育たないと牛は育たない。先人たちの思いが若手を育てたんでしょ」。何十年もかかって先人たちが積み重ねてきた思い。悲願は、新しい世代に託されています。